

活動レポート

道南技術士会

平成19年度 第5回 道南技術士会 CPD 研修会開催

はじめに

道南技術士協議会では、去る2月26日に、第5回、CPD研修会を函館市において開催しました。当日は公務多忙な折、貴重な時間を割いていただいた三人の講師をお招きして講演をしていただきました。古屋温美技術士(北海道大学院特任准教授)、岡田恭一氏(函館土木現業所事業部長)、太宰啓至技術士(函館都市エリア事業コーディネーター)の御三方であります。

日時：2008年(平成20年)2月26日(火)15時
会場：函館ハーバービューホテル
参加人数：29名

1. 話題提供

- ① 産業連関表から見る函館市の産業構造と地域振興シナリオ
— 古屋特任准教授 —
- ② 道南圏の基盤整備の方向性と公共投資
— 岡田事業部長 —
- ③ これからの道南圏の産業振興づくりを考える
— 太宰技術士 —

2. 討論

演題1：「産業連関表から見る函館市の産業構造と地域振興シナリオ」

— 古屋特任准教授 —

趣旨：現在、函館市においては函館国際水産・海洋都市構想が計画され、実施されている。さらに弁天地区(旧函館ドック跡地)では岸壁整備と国際・海洋総合研究センターの構想が樹てられている。これらの構想の実現により、水産業を核とした地域振興の取組みや生産、販売活動を通じ、多様な産業との相互連関が形成され、経済波及効果をはじめとし

て、多くの効果が出るのが期待される。このためには新しい関連産業の創出や、販売構造の変化が求められるところであり、ここでは地域がかかえる問題を分析することとし、「産業連関表」を作り、1年間の生産額、原材料の調達、賃金の支払い、及び製品の販売、地域内の需要、移輸出入等の取引を金額で表し分析する。

先頃、函館市に合併した旧南茅部町の天然・養殖昆布漁業を中心に分析を行うこととした。漁業部門として養殖・天然コンブ、定置網、刺し網・流し網、延縄、イカ釣り、その他漁業、水産加工(イカ・コンブ)、サービス業などに分類している。



分析内容：

- ① 原料調達と粗付加価値、中間需要、最終需要
- ② 将来構想の実現とその効果を分析(函館市に合併後)

現状の課題と対策：

- ① 水産業を核とした地域振興を図るための課題と対策
- ② 水産業を核とした地域振興シナリオの作成
シナリオ委員会を構成し、シナリオの作成を行っ

ている。(表-1参照)

フォローアップ:

フォローアップを作成してから2年を経過。今後、数値データの追加や、新たな産業関連表、効果などを再計算していく。

演題2:「道南圏の基盤整備の方向性と公共投資」

—岡田事業部長—

1) 北海道の社会資本整備の考え方

本道は今、人口減少、高齢化が著しく進行し、これに適応した生活機能の確保をしなければならないこと、さらに多発する災害に対して、防災、減災への的確な対応も行わなければならない状況にある。また高速交通ネットワークの整備も遅れており大きな促進が求められる。



一方、財源面から見ると投資余力も減少し、さらに既存ストックの維持、実新コストがさらに増大することが予想され、非常にきびしい状況になってきている。今後、これらの資本整備を行う上で求められるものは社会の戦略的、効果的な整備、維持管理である。新たな整備の方針策定にあたっては、今後10年間の「選択と集中」の具体化であり、優先度の高い施策事業を明確にしていかなければならない。

2) 過去の公共投資と今後

平成8年度より、平成19年度まで、函土、函開建(建設分)は、平成12年を境に減少を続け、11年度の1,165億円をピークに、19年は約半分まで減少し、今後数%ずつ減少を続けることが予想され、全

道ベースで見ても、19年度、8,690億円が、26年度では6,693億円となることが予想される。

3) 新幹線、高速道路を見すえた道南圏の将来像

新幹線開業により拡大する人口を鉄道、航空、道路網が一体となって交通網を形成する。また、道南各地に点在する観光地の観光軸を設定する。

また、道南圏は「広域分散地域」であり、これ等を結ぶ骨格となる道路が必要である。また新幹線新駅と函館の中心部1.7kmを利用する車の2連結軸を追加する。

4) 観光上での高速交通体系の必要性及び防災上必要とする道路について

5) まちづくり上必要とする道路の渋滞対策

6) 維持管理…公共土木施設の長寿命化を図る。

演題3:「これからの道南地域の産業振興」

(函館都市エリア事業から産業クラスターづくりを考える。)

—太宰技術士—

はじめに

地域振興は会社経営そのものと考えられ、夢と情熱を持った人材を関係者がサポートし、ビジネスプランとして成立つ技術開発を行い、最先端技術の利用を行い製品の高付加価値化により、市場の拡大を図っていくことが必要である。この度、私が当初より関係してきた都市エリア事業は、まさしくこの産業クラスターづくりを考える上で、貴重な体験であり、この事業を紹介していきたいと思う。

1) 都市エリア事業について

① 一般型「ガゴメ及びイカの高付加価値化等に関する開発研究」

ア) ガゴメのライフサイクル操作等に関する開発研究

イ) イカ資源の高付加価値化と健全性確保に関する開発研究

これ等は平成15年より17年まで行われ、開発予算は1億円×3年で3億円となっている。この成果を試算すると、ガゴメ生産高で、平成16年1.8億円、17年7.4億円、計9.2億円となっており、ガゴメ加工品として両年で1.2億円となり、総計10.4億円である。



② 発展型「マリン・イノベーションによる地域産業の形成」

特殊成分の組成、機能性成分の医・薬・工・食分野における活利用の6項目

これ等は平成18年より20年まで行い、開発予算は2億円×3年で6億円となっている。

これ等の研究成果として、ガゴメ海中増殖、ガゴメ陸上栽培、ガゴメ・フコイダン、活イカ宅配便、新型乾燥装置、迅速細菌検査、イカ墨色素粒子となっている。

- ・都市エリア事業の重点実施項目
市場性的確な把握、技術的課題の早期解決など6項目
- ・販売促進活動の現状と今後の進め方
商品のPR活動など6項目
- ・ガゴメポータルサイトの開設、都市エリア成果品販売促進組合の活動

2) 今後の産業クラスターづくりについて

3) 技術者の役割について

おわりに

平成15年3月に、函館市がさらに発展するためには、地域の特性や優位性を活用して、個性と魅力ある都市にしていく必要があるところから、「函館国際水産海洋都市構想」を策定し、「国際的な水産、海洋に関する学術、研究拠点都市」を旨とする新たな街づくりを取り組み始めている。こうした中、「話題提供1」では合併間もない旧南茅部町の水産産業を調査対象とし、分析を行い、問題点及び課題を提起している。さらに函館市全体の水産産業に調査範囲が拡大していくことが期待される場所である。

本道と本州を結ぶ青函トンネルが開業以来20周年を迎え、さらに再来年には、八戸～新青森が開業し、2015年にはいよいよ新函館駅の開業が見込まれており、新幹線で結ばれる。これにより、大量の観光客が訪れることが予想され、道南圏の交通網の整備は急務となっている。「話題提供2」では話題提供者が公共投資削減のきびしい状況の中、この取組みに邁進されている立場から、現状の課題、将来像を説明しているが、特にこの対策に向けては、これから一層官民あげての取り組みが必要であることが痛感された。

「話題提供3」では太宰技術士が4年余の間、都市エリア事業のコーディネーターとして、ガゴメコンブ、イカを中心とした諸事業の研究、開発にたずさわって、大きな成果を上げた。この事業が、いわゆる産学官連携事業としての成功例として注目されることになろうし、これからの発展がますます期待される場所である。さらに、この事業の推進にあたり、多くの方が、知恵を出し合い、難問を一つ一つ解決していったことに心から敬意を表すものであります。

今、道南圏は発展していく上で大きな転機を迎えようとしており、今回の話題提供の3題はまさしく時を得たものと思います。

表-1 将来構想の実現とその効果

※ 合併後の函館市の地域振興シナリオとその効果
(産業連関表を使った分析) (百万円)

| シナリオ | 直接効果 | 一次波及効果(市内) | 二次波及効果 | 波及効果合計 | 域内GDP増加額 |
|---------------------------|-------|------------|--------|------------------|------------------------|
| 1. 昆布の付加価値化 | 697 | 1,204 | 388 | 1,592 (2.28倍) | 811 |
| 2-1 活魚・活き魚販売 | 22 | 31 | 14 | 45 (2.01倍) | 37 |
| 2-2 輸出拡大 | 554 | 554 | 377 | 931 (1.68倍) | 654 |
| 3-1 活イカパック | 120 | 163 | 49 | 212 (1.77倍) | 119 |
| 3-2 生鮮イカパック | 151 | 236 | 65 | 301 (1.99倍) | 153 |
| 3-3 イカ墨製造業 | 60 | 86 | 13 | 100 (1.66倍) | 40 |
| 4-1 ガゴメ関連の新規産業 | 500 | 641 | 92 | 734 (1.47倍) | 761 |
| 4-2 養殖ガゴメの増産とガゴメ生産流通加工の拡大 | 2,000 | 2,270 | 1,008 | 3,279 (1.64倍) | 2,272 |
| 5. IT活用による水産品のブランド化 | 52 | 71 | 31 | 100 (1.93倍) | 65 |
| 合計 | 4,156 | 5,257 | 2,036 | 7,293 (1.75倍) | 4,912 (人口1人当たり17千円) |

注1 波及効果合計()内波及乗数(波及効果合計/直接効果)
注2 函館市人口29.4万人(平成17年)

(文責:道南技術士会 松田 豊治)

